

News Letter



当センターは、紀伊半島を中心に、食と農林水産業の分野に関わる研究活動を通じて、学術研究の発展と地域社会との連携や地域貢献機能の強化に資することを目的に研究活動を行い、加えて研究成果の地域への提供や学内外における教育活動を行っています。今年度も、地域の方々と連携しながら、さまざまな研究教育活動を行うことができました。今年度の活動内容につきまして、皆さまにご報告いたします。

引き続き、当センターへのご理解やご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

地域課題の解決を目指した研究プロジェクトの推進

本センターの研究プロジェクトの一部をご紹介します

地域資源の循環による 農業や農村の活性化に向けた研究

東京大学未来ビジョン研究センターとの共同研究（本年度で4年目であり、次年度も継続が決定）であり、和歌山サテライトとして活動しています。未来の和歌山県の農業や農村を考える紀北農芸高校での未来ワークショップ【テーマ：「持続可能なわかやま農業の実現～地域資源を活用した循環型の農業を考える～」】を開催しました。座学・フィールドワーク（早和果樹園と秋津野ガルテン）・ワークショップを分けて実施しました。今年度は、農林大学校でも開催し、次年度以降も継続する予定です。



農林大学校でのワークショップ風景

「きみの地域づくり学校」の 学びから実行段階へ

「きみの地域づくり学校2025」は、地元住民をはじめ、和歌山県内の地域おこし協力隊、行政職員、大学(院)生など69名が参加して、15講の座学編とインターシップによる実践編が行われました。設立から3年目を迎え、修了生からは移住者や起業家が生まれ、地域活動に参加する学生もみられます。2026年1月には、学びを実践につなげようと、地域づくり団体『きみの夢工房』が設立されました。

2026年度は、実践編に新たにAdvancedコースが加わり、地域資源を活用した6次産業化と着地型観光をテーマに社会実装型のフィールドワークが行われます。

<https://www.town.kimino.wakayama.jp/sagasu/machi/chiiکیدukurischool/ind>



起業した修了生の講義風景

ソルガム栽培に潜む暗黙知

卒業研究の一環として和歌山大学教育学部附属農場でソルガムの栽培を行いました。およそ100平方メートルの畑で貴重な失敗を経験しました。なぜ貴重なかという、何気ない播種後の「土の被せ方」が重要な播種時のコツ、すなわち暗黙知であることが分かったからです。日本人にとって馴染みの少ないソルガムが、あまり注目されない「土の被せ方」の重要性に気づかせてくれました。この経験は教育現場でも役に立つはずだと考え、日本理科教育学会近畿支部大会でソルガム栽培における暗黙知の気づきについて学生が発表し、反響を得ました。



ソルガム栽培協力者の方との脱穀作業の様子

地域連携による果樹剪定枝由来バイオ炭の利活用に関する研究

当センターでは2023年度から、和歌山県内の県公設試験研究機関（和歌山県果樹試験場うめ研究所、和歌山県工業技術センター）と連携し、果樹剪定枝由来バイオ炭の収炭率・性状および利活用方法を研究しています。2024～2025年度の予備的な簡易ポット試験（コマツナ幼植物試験）では、生育促進の傾向が示されました（日本炭化学会研究発表会で一部報告済みです）。一方、施用量によってはpHが高くなる傾向も確認しているため、適正な施用量を継続して検討し、温室効果ガス削減と農地への炭素貯留に役立つ知見を蓄積していきます。



バイオ炭を用いた予備的簡易ポット試験の実施状況

わかやまマーケティングリサーチプロジェクト — 阪神百貨店食祭テラスの取り組み —

阪神百貨店の食祭テラス（1階売場）で、学生が選定した県内商品や地元企業と開発した商品の販売、和歌山のPRなどを行っています。県内の生産者（製造業者）の訪問、実際の顧客に対する販売、顧客アンケートや売上データ分析なども行っています。

また、西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社関西支社、株式会社つむぎ及び和歌山大学の3者連携プロジェクトとして、和歌山県の新たな目玉となる土産商品を開発すべく、知恵を絞りながら時間をかけて考えてきました。その成果として、「バームクーヘン」を紀ノ川SA上下線でも販売しました。



和歌山しっとり生バウムのパッケージ

ワーキングホリデー（労働力支援） プロジェクト

全国で唯一の「飛び地」である北山村で実施しました。①受入担当（地域）と教員の協議、②教員と学生の協議、③学生の事前学習、④ワーキングホリデーの実施（座学を含む）、⑤学生の事後学習、⑥報告書の作成を1つのサイクルとして、学生が、地域内の担い手不足の領域で働き、一定期間滞在することで、地域課題解決に貢献するとともに、地域の歴史や自然、文化、地域の暮らし等に触れることができる交流イベントを通じて地域をまるごと体感できました。



北山村の概要

都市農業振興に向けた JAわかやまとの共同研究

都市農業振興に向けて、現地視察を実施しました（本年度で共同研究は終了）。担い手対策として「お試し就農」を実施する宮崎県では、宮崎県庁・JAみやざき・民間企業が連携して、多様な担い手の確保を実現しています。また、JAファーマーズマーケットである高知県の「とさのさと」では、県内巡回集荷の実施による品揃え強化やセレクトショップ・地域情報発信拠点としての機能を有するとともに、大型小売店と連携することで、大きな成果をあげており、今年度、県単一農協となった和歌山県農協の取り組みにも参考になる有意義な視察となりました。



JAファーマーズマーケット「とさのさと」の外観

研究成果を活用した学び

JAわかやま寄附講義「食と農のこれからを考える」

本年度は、寄附講義最終年度でした。例年とおり、学生365人、JA役職員10人、行政関係者・聴講生ら10人が受講しました。毎年恒例のJAわかやま前年度受講者とともに、フリーランス農家や農業法人代表などが登壇し、熱弁をふるいました。最終回では、今年度誕生した県単一農協である和歌山県農協の坂東組合長が登壇し、農協や農業の現状について解説しました。さらに、和歌山大学卒業生で徳島県において就農した矢部氏が登壇し、現在の農業経営や就農に至った経緯などについて、後輩にわかりやすく話をしました。

公開セミナー「食農研」10周年記念講演会開催

ノンフィクション作家の高野秀行氏による講演会「辺境メシ ギリラ肉(!?)から元首狩り族の超熟納豆まで」を和歌山大学で開催しました。学内外の多数の参加者らと、高野氏のお話しと現地の写真を楽しみながら味わうことができました。